

第 1 回 栗東市観光振興会議 会議概要

■日時：令和 6 年 7 月 22 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

■場所：栗東市危機管理センター 2 階 防災研修室

■出席：《委員》

築地 達郎委員（会長）、田中 由美委員（副会長/WEB 参加）、岡山 光雄委員、
三木 茂委員、林 優里委員、濱田 康之委員、鶴田 泰伸委員、高野 秀樹委員、
北川 寛人委員

《オブザーバー・運営組織》

一般社団法人栗東市観光協会 山口事務局長

《委託事業者》

（株）しがぎん経済文化センター

《事務局》

環境経済部長、商工観光労政課長、商工観光労政課事務局担当

■欠席：なし

1. 開会

（商工観光労政課長）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

（築地会長あいさつ 省略）

（環境経済部長あいさつ 省略）

（事務局）

- ・ 本会議内容は原則公開。
- ・ 本日の傍聴者はなし。

4. 報告事項

（1）令和 5 年度の取り組み実績および令和 6 年度取り組み状況について（資料 1）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員：令和5年の観光入込客数が100万人を超えたということで、1日平均だと約3,000人だが、どのような積み上げで100万人に到達したのか。

事務局：観光入込客数は市内にあるスポット20数カ所に調査を依頼し、1年間を1月から12月のタームで集計している。その積み上げで103万人となった。

委員：トップ3ぐらいまでわかれば教えてほしい。また、イベントの参加者数は含まれているのか？

事務局：イベントは「栗東駅前夏祭り」を調査している。8000人で入込客数に計上されている。入込客数が上位の施設は、アグリの郷栗東、田舎の元気やである。

委員：ぜひこういうものを広く知らせるべきではないか。このような魅力的な場所を知らない人も多くいるだろうし、行列があればなんだろうと思って後ろについていく人も多いと思う。そういう魅力の発信の仕方もあるのではないのか。また、観光協会が関わっている部分で、100万人に対して占める人数はわかっているか。

事務局：人が多く集まる場所も含めて観光振興という意味だと考えているので、そういう点では今年1年間、観光振興ビジョンを含めて検討させていただく内容かと思っております。

委員：観光消費額も1日平均で約800万円となる。誰がどこで何にお金を落としているのか、現行ビジョンで運営をお願いしている観光協会がどれだけ担っているのかも含めて明確にすることが重要ではないか。観光ビジョンをどう動かしていくのか、経済効果が一番わかりやすい評価の仕方だと思うので、令和6年度評価ではデータを出してもらえるとよりわかりやすいと思う。ちなみに「栗東駅前夏祭り」はボランティアがクラウドファンディングでスタートしてやっている点も含めて、より明確にしておくべきではないか。

会長：第二期観光振興ビジョンの策定に向けてどのように物事を捉えるのかということに関係する質問と意見が出たと思う。観光入込客数は観光振興における指標として伝統的に扱われてきて、本市でもこのデータを常にチェックされているわけだが、観光入込客数の順位を見ると、明らかに通過型になっている。たまたま車で通りかかったタイプの来客が相当数を占めていて、本市が

目指すべき観光のあり方をむしろ見えなくしていると感じる。現行のビジョンではこの観光入込客数を測定指標として用いているので、これを無視するわけにはいかないが、次期ビジョン策定にあたっては、この指標そのものをしっかりと考える必要があるのではないかと思う。そのような考え方で今後の会議体の進行を司っていきたい。皆さまのお知恵出しのご協力をよろしくお願いしたい。

(2) 令和6年度の主な事業計画について(資料2)

※関連資料を追加配布…次年度以降の実施事業の概要について(令和5年度 第2回振興会議 資料3-2)

○事務局説明(省略)…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員 : LINE クーポン発行はなぜ飲食店だけにしたのか。

事務局 : 飲食店“中心”なので30店舗すべてが飲食店ということではなく、飲食店以外でも協力いただければ検討させていただきたい。

委員 : フォレストアドベンチャーなどでもクーポン使ってもらったらより効率的ではないか。「ぶらり栗東」を中心にするかどうかも含めて、もっと門戸を広げてはどうか。

委員 : 前回このクーポンのことで委員から意見があったと思うが、クーポンの割引は民間事業者が負担するのか、それとも商工会がやっているような事業者が割引した分を後から補助金などで補填する形なのか。

事務局 : 各店舗の負担にならないところでお願いするという形になると思っている。市は金銭的な負担の代わりに各施設の紹介を公式 LINE で発信するという形でプロモーションを担わせていただきたい。

委員 : 我々事業者が負担する形のクーポンを配信するということだが、割引クーポンの配布は民間でも十分できるので、それを行政の観光消費額の増加を目指す仕掛けとするのは少し違うのではないか。観光振興ビジョンの中での取り組みだとするとちょっと納得できないと感じる。

委員 : LINE でのクーポン発行事業の目的について、「デジタル田園都市国家構想の

もとに公式 LINE の運営が開始される」ことと、「各市民サービスの DX 化」と「観光振興」、これらの繋がりについて公式 LINE のローカルサービスの中でどのような位置づけになるのかということをしかりと揉んだ上で、来年度以降の政策の構築に役立ててほしい。

5. 協議事項

(1) 第二期栗東市観光振興ビジョン（案）の策定について（資料3）

※関連資料を追加配布…観光客ニーズ調査委託業務報告書

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員：観光客ニーズ調査では土産品の種類や購入場所のニーズが高く、第一期ビジョン評価の「不十分だった点」でも「観光消費喚起への直接的な施策が弱い」とあるが、第二期ビジョンの方向性では触れていない。その点どうなのか？

事務局：土産物は観光振興を進める上で栗東市の弱点の一つだと認識しており、具体的な点を今後議論いただく必要があるが、今は振興ビジョンの大きな方向性について議論いただければと考えている。

事務局：資料3の14ページ「重点施策の方向性」は、事務局として現時点で想定できる素案の素案という状態。ご意見いただいた土産物や消費喚起についてもこの想定に記載すべき内容だと思う。第一期の評価やニーズ調査の結果も踏まえ、第二期で取り組むべき政策や事業は一覧として素案作成する必要があるので、その内容については今後十分検討させていただきたい。

会長：今の委員からの指摘はストレートに受け止めていただき、資料3の12～14ページに直接追記すればいいのではないか。つまり12ページ「不十分だった点」の観光消費関係の直接的な政策が弱い点と土産品の不足は直結している。それに対応するものとして13ページの「市全体に観光でメリットをもたらす」で論点として出ている。それを受けて14ページはサステナブルな観光の促進というよりも、まずは皆がちゃんとメリットを実感できる観光施策というのが一つ目にあっていいのではないか。四つに絞らず項目を増やしてもいいのでは。

委員：私個人の意見として、市民のおもてなし意識の醸成にも繋がると感じる。例えば当組織であれば、サービス部会や商業部会がそれぞれの個店の魅力を発信することで「また来てくださいね」という思いも含めて「おもてなし」という発

想が出てくると思う。そこは観光協会がやっているさまざまな事業や会員の方とも連携しながら、消費喚起・おもてなしという意識を持たないと、プレミアム付商品券などをやっても個々の店舗の動きにしかないと思う。街をあげて取り組まないと「また来たい」「来てほしい」という市民意識の醸成はできないので、何らかの連携で街全体を盛り上げるということに力を入れ始めてもいいのではないか。それがニーズ調査からも同様な結果が出てきているというのであれば、重点施策の一つとして取り上げる必要がある。

委員：資料3の14ページ「方向性」について、第一期の施策では「馬を活かしたまちづくりの推進」という観点が無いように思う。市長も馬の活用に言及しているし、ホースパーク計画もあるので第二期では馬を活用して市内の観光事業者が潤うような施策が必要と思われる。

委員：資料3の2ページ。第六次総合計画が上位計画なので、観光ビジョンは総合計画に基づいてより具体的な内容を検討する必要があると思うが、総合計画についての情報などはあるか。

事務局：第六次総合計画の後期計画が令和7年度からスタートするため、今年度その策定を行っているところだが、素案がまだ出ておらず、観光ビジョンは並行して進めている状況。現状は前期の計画から大きく変わることはないという前提で進めている。総合計画についてお示しできる段階になれば情報提供したい。

委員：先ほどの「馬」についての意見でも出たが、総合計画にしっかり織り込んでいないと観光ビジョンが先行することは難しいのではないか。

会長：今のご意見も含めて、4ページのスケジュールを検討したい。次回、8月の振興会議②で総合計画の骨子が見えてくるのであれば、それを受けて議論を進められるが、その点、事務局いかがか。

事務局：おそらく9月の振興会議③ぐらいのタイミングで、総合計画の素案の素案のようなものも出てくるのではと思う。総合計画も審議会があるので、方向性についての情報をなど入手してお出しできるようにしたい。

会長：ということは、振興会議②と③は一体化して9月下旬に開くほうが合理的ということでは。②の趣旨が合意形成であるなら、別のやり方もあろうかと思う。

事務局：総合計画の素案の素案が出てくるタイミングとは別に、第2回で検討いただきたい内容もあろうかと思うので、会議の時期については再度、事務局内で検討した後に日程調整させていただきたい。

会長：委員の皆さんには次の会議の日程調整表をご記入いただいているが、これは一旦承った上で、特に2回目の会議をいつ開くのがより合理的かについて事務局と詰めさせていただきたい。場合によっては、日程を再調整することもあるかと思うので、ご協力をお願いしたい。2回目の会議でどのような事務局案をお見せいただけるのかを見た上で、会議を開く必要があるかどうかを私の方で判断させていただきたい。

委員：10ページの観光客のニーズ調査で、土産品の種類などはニーズが高いが、逆に宿泊などは数値が低い。宿泊ニーズが上がってこないと買い物をして通過するだけになると思う。滞在型観光を推進するのか、通過地点としての特徴を生かした方向性なのかという点は、皆さんと議論したい。

会長：非常に重要な論点。交通網を生かした通過型か、それとも滞在型かというのは本当に戦略的課題だと思う。これをどこに盛り込むかも含めて検討いただきたい。栗東らしい受け入れ体制をどう追及していくかということだと思う。

事務局：市が宿泊施設を作ったり誘致したりというのは難しいと思うが、例えば、金勝にある宿泊施設を使って観光につなげて数値を上げていくような政策はありえると思う。宿泊施設が多く、栗東の魅力である山の活性化についてもビジョンに位置付けたいと思っている。

委員：ぜひ宿泊施設の稼働率を調べていただきたい。施設はあるのに使われてないのか、満室だからさらに誘致しないといけないかで、考え方は大きく変わる。ホテルや民泊も含めて稼働率データがあれば検討材料になる。資料1の令和5年度の取り組み実績についても費用対効果を出していただきたい。どれだけのお金を使って実施して、人数が増えたのか減ったのかというのは事業精査をする上では大変重要な項目になると思う。

6. その他

とくになし

7. 閉会

以上